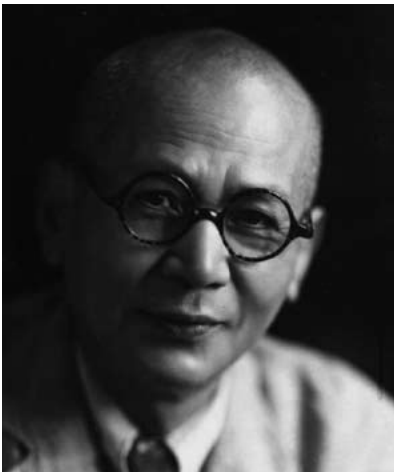


まえだ 伍健 (1889~1960)



愛媛川柳界の第一人者。野球拳の創始者。香川郡高松内町(現、香川県高松市)出身。父から居合や書画を教えられて育った。香川県立高松中学校(現、香川県立高松高等学校)を経て、坂出の伊予水力電気の支店に入社、やがて本店の松山に転勤となり松山へ移住した。大正5(1916)年、伊予水力電気と伊予鉄道が合併して伊予鉄道電気(現、伊予鉄道株式会社)となり、同社にそのまま勤めた。

川柳は、東京の窪田而笑子の高弟で、全国川柳界の七賢人(ななけんじん)に選ばれたほどであった。大正末期から県下柳壇(りゅうだん)の第一人者として川柳の指導、普及に力を尽くし、全国に先駆けて愛媛県川柳文化連盟を結成し、初代会長となった。代表作の一句として知られる「考えを直せばふっと出る笑い」は、太平洋戦争終戦間際の焦土と化した松山市内の各所に貼り出され、多くの人から

励まされたと礼状が届いたという。

また、野球拳の創始者としても知られ、伊予鉄道退職後も、自動車学校の教師を務めながら、趣味人として生き通した。昭和35(1960)年、椿まつりに出かけた翌日倒れ、一週間後に世を去った。

略歴

明治22(1889)年1月5日	香川郡高松内町に生まれる。
明治30年代	高松中学校に入学、卒業を待たずに伊予水力電気坂出支店に入社
大正5(1916)年	伊予水力電気と伊予鉄道が合併して伊予鉄道電気となり、同社にそのまま勤務
大正9(1920)年	窪田而笑子の門に入り、酒井大樓らと川柳普及に尽力
大正10(1921)年	窪田而笑子が川柳雑誌「媛柳」創刊。五剣(伍健)は幹部として尽力
大正12(1923)年	海南新聞(現、愛媛新聞)川柳欄選者となる。
大正13(1924)年10月	高松での近県実業団野球の懇親会で、即興で野球拳の歌詞を作る。
大正15(1926)年10月	秋山好古の勧めで号を「五健」と改名
昭和3(1928)年10月	而笑子没後、松山媛柳吟社を再発足、会長となる。
昭和13(1938)年	愛媛毎夕新聞創刊、川柳欄を担当する。
昭和16(1941)年	川柳雑誌『川柳伊予』1月号巻頭で「川柳真・情・美」声明
昭和22(1947)年1月	愛媛県川柳文化連盟を結成し、初代会長となる。
9月	号を「伍健」に改める。
昭和25(1950)年6月	伍健の進言で川柳まつやま吟社が創設され雑誌『川柳まつやま』創刊
昭和35(1960)年2月11日	71歳で永眠

(写真提供：木村耀子氏)

〈関連図書〉

- ・前田伍健『たぬき日記』愛媛タイムス社 1956年
- ・前田伍健『伍健句集「野球拳」』前田欣一郎 1962年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・『発掘えひめ人-近代を拓いた101人-』愛媛新聞社 2002年
- ・松山百店会『松山百点 第264号』松山百店会 2004年
- ・塩見草映『前田伍健の川柳と至言』新葉館出版 2004年

〈主な収蔵資料〉…(P226, 134~138)

〈ゆかりのある場所〉…(P312, 195~196)